

イタリア語

それはイタリアへの パスポート *passaporto*

1. 担当教員の紹介

イタリア語 I・II 会話：エマヌエレ・コンティ（専門はイタリア・スペイン語教育）
文法：佐藤りえこ（専門はラテン・ギリシア文学）

イタリア語 III・IV エマヌエレ・コンティ

2. まず、目的地を決めましょう

***イタリアにはいろいろな顔があります。**



写真：Stefan Bauer, <http://www.ferras.at>

あなたが「これっていいかも！」「おもしろそう！」と感じるイタリアがきっとあるはずです。

ファッション：イタリアには Gucci、Armani、Valentino など、世界的に有名なファッションメーカーがあり日本でもとても人気です。イタリア人はみな、ファッション意識が高く、友人宅に招待されると、いったん帰宅、着替えておしゃれをしてから出かけるほどです。

美術：博物館や美術館、歴史的なモニュメントが数多くあります。ミケランジェロ、ボッティチェリなど、ルネサンス期の有名な画家はもちろん、現役の路上アーティストたちだって負けてはいません。

音楽：オペラやカンツォーネ、クラシックそれに映画音楽界でイタリアは多数の作曲家や演奏家を輩出しています。音楽芸術の分野に限らず、恋に情熱的だと言われるこの国では好きな女性に向かって男性がセレナータ（恋の歌）を歌うことでも有名です。現在でも、結婚式の前夜、婚約者の住む家のベランダの下に立って歌う習慣が残っている地域があります。

食文化：イタリア料理はパスタ、ピザ、ジェラートだけだとは思っていませんか？生ハムやサラミの Antipasto（前菜）に続く Primo Piatto（最初の料理）ではパスタカリゾットを、肉、魚料理の Secondo Piatto（メインディッシュ）、それにデザート of Dolce というコース料理もあります。それぞれ料理には地域的な特色があり、その土地でしか味わえない郷土料理も健在です。本場の味をぜひ現地で賞味したいものです。

歴史的遺産：古代ローマ帝国の中心地であった歴史を持つローマは、街全体が文化遺跡として保存されています。このようにユネスコの世界遺産はイタリア全土にあり、実際に訪れることで教科書からは学べない歴史的な感動が得られます。

歴史への貢献：航海時代、それは多くのイタリア人航海士が活躍した時代です。アメリカ大陸を発見したのもイタリア人でした。歴史の教科書では、コロンブス（ジェノヴァ出身）はスペイン人となっていることがありますが、スペインの女王から経済的支援を受け

ていたゆえの誤解です。アメリカという大陸名も、イタリア人のアメリゴ・ベスプッチに由来しています。

科学：ガリレオ・ガリレイはもちろん有名ですが、「モナリザ」を描いたダ・ヴィンチが工学・医学（解剖学）の分野でも活躍したことは、意外に知られていません。また、アラビア数字の優位性を説いたフィボナッチ、近代会計学の父であるパチョーリなどの数学者の偉業を知っている人は少ないのではないのでしょうか。

最古の総合大学：ヨーロッパで最初に大学教育がスタートしたのはボローニャ大学です。現在でもイタリア国内で第二位の規模を誇るこの大学には、世界中から多くの留学生が学びに来ています。

スポーツ：国民的スポーツとしてサッカーが盛んで、セリエ^アと言えれば誰でも知っているイタリアのリーグです。ワールド・カップで何度も優勝しており、日本人のサッカー選手も憧れる登竜門的存在です。また日本ではイメージが薄いですが、イタリアはバレーも強い国です。

3. それでは、^{パスポート} *passaporto* (=イタリア語)を準備しましょう

***行き先が決まれば、次はパスポート。イタリア語について少しだけ見ておきましょう。**

イタリア語を母語とする話者は **6,100 万人**で（日本の人口の約半分）です。イタリア語はイタリアとバチカン市国、サンマリノ共和国、スイスの一部の州の公用語です。さらに、移民としてイタリア人が世界各国に散らばっているので、実際に**イタリア語が話される地域は広範囲**にわたっています。イタリア語は歴史的には、ローマ帝国の共通語であったラテン語から派生したことばで、同じようにラテン語から派生した言語であるフランス語やスペイン語、ポルトガル語などとは兄弟関係にあります。

イタリア語の発音は、基本的に**ローマ字読みで大丈夫**です。文法は日本語とかなり異なるため初学者にとっては理解しにくいものがあります。しかしイタリア人の多くは、たとえ相手が単語を2, 3個しか知らなくても、諦めずにコミュニケーションしようとします。よくイタリア人は両手を縛られると話ができなくなると言われます。これは過剰なまでにジェスチャーしながら会話をするため、両手の自由が利かなくなると話ができなくなるからなのです。言葉以外にコミュニケーションには表情、イントネーション、動作など必要な要素がたくさんあります。文法の基礎をしっかりと学ぶことも大切ですが、何よりも**まず、恥ずかしがらずに学んだことをどんどん使ってみる心意気**が大切です。使っているうちに知らず知らず理解できなかった文法も習得できるはずです。さあ、一緒にイタリア語を学んでみましょう！

Buono studio!